

(株)藤里開発公社の経営状況について

第19期（H21.4.1～H22.3.31）の経営状況について、6月の定例議会で報告されましたので公表いたします。当期における経営環境は先行きの見えない景気低迷の中、5月に発生したインフルエンザ、さらには初夏の二度にわたって襲った土砂崩壊による白神山地岳岱への入山規制等、非常に厳しい状況を強いられました。

このようなマイナス条件の多い中でも、灯油価格が過去5年間で最安値となり温泉業にとっては追い風の要因もありました。また、減資も行い財務体質強化もしております。

※貸借対照表、損益計算書は下表のとおりとなっております。

貸借対照表（H21.4～H22.3）

（単位：千円）

資産の部				負債の部			
科目	21年度	20年度	増減	科目	21年度	20年度	増減
流動資産	49,089	59,489	-10,400	流動資産	170,875	187,518	-16,643
固定資産	792,345	882,118	-89,773	固定資産	539,291	600,905	-61,614
有形固定資産	791,523	791,273	250	資産合計	710,166	788,423	-78,257
無形固定資産	470	534	-64	純資産の部			
投資その他資産	352	90,311	-89,959	純資産合計	131,267	153,184	-21,917
資産合計	841,434	941,607	-100,173	負債及び純資産合計	841,434	941,607	-100,173

損益計算書（H21.4～H22.3）

（単位：千円）

科目	21年度	20年度	増減	伸率
売上高	263,349	330,137	-66,788	79.70%
売上原価	84,419	119,182	-34,763	
粗利益高	178,930	210,955	-32,025	
収入	130,355	107,368	22,987	
売上総利益	309,285	318,323	-9,038	
率	67.90%	63.80%	4.10%	97.10%
一般管理販売費	215,952	273,807	-57,855	78.80%
営業利益	93,333	44,515	48,818	209.60%
営業外収支	-10,985	-12,268	-789	
経常利益	82,348	32,247	50,101	255.30%
特別収支	-103,965	-1,733	-102,232	
税前当期純利益	-21,617	30,514	-52,131	
法人税等	300	1,681	-1,381	
当期純利益	-21,917	28,833	-50,750	

主な事業、実績概要につきましては、以下のとおりとなっております。

●ホテル部門

宿泊客は昨年度比94.3%となりました。特に6、7月の雨による土砂崩壊で県道西目屋・二ツ井線が通行止めとなったことが影響し、4月から9月までの6ヶ月間は83.1%に止まりましたが、10月から3月までの6ヶ月間は112.5%と伸長しました。また、宴会、会食は昨年度比94.8%とやや停滞し、全体に占める割合が小さいものの、結婚式も56.9%と大きく割り込んでおります。

●保養館部門

入館客は昨年度比90.0%となり、ホテル宿泊客との関係もあり減少傾向ですが、灯油価格が過去5年間で最安値であったことに加え、使用量を91.6%に節減したことで収益改善が図られました。

●水生産販売部門

年間製造本数約120万本となっております。決算期末に大口取引先との契約が進んだ事や、会員向けキャンペーンを実施したことなどから成績を大きく伸ばすことができました。

●加工部門

売上は引き続き厳しい状況にありましたが、粗利益率の改善や経費節減で赤字は大幅に改善されました。